

いわき農林事務所ニュース

2006年 11月号



◎活動状況

- ・ [野生きのこ判別研修会を開催](#)
- ・ [出前講座\(華炭体験\)開催される](#)
- ・ [森林環境税を財源としたボランティア事業「みんなで育てる海辺の松林」を実施しました](#)
- ・ [『ふくしま食・農再生戦略』説明会が開催されました](#)
- ・ [「出先機関連携事業\(未利用森林資源活用\)に係る指導者研修会」が開催されました。](#)
- ・ [平成18年度第1回いわき農業普及推進懇談会を開催！](#)
- ・ [野菜のエコファーマー9名が認定されました](#)
- ・ [渡辺小の「田んぼの学校」その8](#)

◎トピックス

- ・ [プレターン事業田舎暮らし体験ツアー」を行いました](#)
- ・ [第9回福島県森林組合連合会良質材展示会が行われる](#)
- ・ [第45回福島県優良木材展示会が行われる](#)
- ・ [株式会社いわき木材市場の創立五十周年記念市が行われる](#)

活動状況

○野生きのこ判別研修会を開催

10月5日(木)に川前町(かわまえまち)のいわきの里「鬼ヶ城」で地区別研修を兼ね、野生(やせい)きのこ判別研修会が開催されました。この研修会は、野生(やせい)きのこの本格的な発生時期を迎え、きのこに関する相談が多くなると思われるため、野生(やせい)きのこ判別研修会を行うことで林業普及指導員の技能向上を図るとともに、併せて市の担当職員等に対しても野生(やせい)きのこに対する知識の普及を図ることを目的として行われたものです。当日は、林業研究センター研究員の指導により、参加者各自が付近の山林から採取した野生(やせい)きのこを同定しました。



研修会の様子

当日採取されたきのこは約40種でしたが、野生(やせい)きのこは4,000種程度が存在し、未だ名前がついていないものも多数あることから確実に食用と判断されたきのこのみ採取することが肝心であるとのこと。参加者は野生(やせい)きのこの見分け方について熱心に説明に聞き入っていました。

また、10月9日(月)にはNPO法人「いわきの森に親しむ会」の主催により野生(やせい)きのこに関する勉強会が常磐藤原(わら)町の湯の岳山荘で行われました。このNPO法人は、森林環境学習や里山(さとやま)林整備などの活動を行っており、勉強会はその一環として行われたものです。当日は22名の会員が参加し、農林事務所職員の指導により、午前中はきのこの自然界での役割やその見分け方の学習、午後は付近の山林から採取されたきのこの同定を行いました。

両日ともクサウラベニタケが多く採取されましたが、このきのこは、いわき地区で特に人気のある食用の、ウラベニホテイシジミと極めて類似しているため誤食による食中毒の原因となりやすいものです。毒きのこによる中毒は、クサウラベニタケにカキシジミとツキヨタケを加えた3種によるものが全体の70~80%を占め、従って、これらを確実に区別することで毒きのこによる食中毒の大部分を防げますので、野生(やせい)きのこの採取にあたっては十分注意していただきたいと思えます。

○出前講座(華炭体験)開催される

10月11日(水)、いわき市常磐藤原(わら)町の湯の岳山荘に於いて、植田公民館から要請があった出前講座を開催しました。

植田公民館では、独自の市民講座「中岡チャレンジ教室」を毎月開催しており、今回は炭焼きにチャレンジすることとなったわけです。

この時の受講生は21名で、講師は森林林業部の担当者が務めました。

炭というと一般的には木炭とか竹炭ですが、この時はクリ、松ぼっくりをはじめ、パイナップル、バナナなど、いろんな素材での「華炭」づくりに挑戦しました。松ぼっくりのような乾いた小振(こぶ)りな素材は、お菓子の空き缶に詰めて約2時間ほどかけて蒸し焼きにしました。

そのほかのカボチャ等の生ものは、炭窯で竹と一緒にじっくりと時間をかけて仕上げます。この日は同山荘の窯を手がけた草野平治氏(福島県林業普及指導協力員)も応援に駆けつけ、長年の経験で培った炭焼きを成功させるコツについて話をして頂きました。

一週間後の窯開(あ)けが楽しみと、受講生一同たいそう満足していた様子でした。

また、昼食は石窯を利用したピザ焼き、パン焼きにチャレンジ。

いろんなことに挑戦する奥様方の熱心さには見習うべきものがあると思いました。次回は焼き物にチャレンジします。



できあがった華炭

○森林環境税を財源としたボランティア事業「みんなで育てる海辺の松林」を実施しました

平成18年10月15日(日)及び29日(日)、新舞子海岸にて、森林環境税を財源としたボランティア事業「みんなで育てる海辺の松林」を実施しました。両日とも、風はあったものの、穏やかに晴れ上がり絶好の野外作業日和(びより)となりました。

はじめに、車や人が無秩序に海辺の松林(保安林)に入りこみ、踏み荒らすことがないように木製の柵の設置を行いました。10月15日は約34m(メートル)、29日は約37m(メートル)の柵を設置しました。柵の杭を打ち込む穴を掘るための機械が、穴から抜けなくなるなどの若干のハプニングはあったものの、和気出来上がった柵は上下左右に絶妙なカーブを描き、2度と同じものは作れないといった愛嬌満点な出来映えとなりました。

柵の設置が終わった後は、環境学習会を行いました。風が少し強かったので、松林の中の学習会となりましたが、森林環境税と保安林制度、新舞子海岸の松林の成り立ちの歴史や松林が果たしている役割を学びました。

最後に車などの踏み荒らしにより松林が衰退した箇所に、クロマツの苗を植栽しました。植え終わった区域を眺めると、先人が知恵と汗を尽くして築いてきた松林の歴史に新たにページを加えることができた気持ちになり、感慨深いものとなりました。今後、苗木が成長し先人が育てた松林と一体となり、持てる機能を発揮することを期待したいと思います。



作業の様子



完成した柵

○『ふくしま食・農再生戦略』説明会が開催されました

10月19日(木)、県いわき合同庁舎大会議室にて「ふくしま食・農再生戦略」説明会が開催されました。

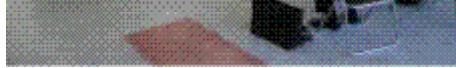
はじめにいわき農林事務所小山所長からあいさつがあり、本戦略策定までのあらましと策定内容の概要についてお話がありました。

続いて県農林企画グループ吉田主幹から、「みんなで創る農業・農村3A運動」後期対策での、戦略実現



に向けた3つの柱と5つの具体的戦略、そして、その5つの戦略を支援する、食・農・環境ネットワークサポート体制についての説明がありました。

この「ふくしま食・農再生戦略」は、地域の農業者や消費者等に対し、分かり易く、かつ、将来の農業経営に意欲がもてるような、農業の目指すべき将来の方向性を示したものであり、基本的な考え方や重点推進施策などについて関係者のご理解とご協力を賜りたいと思います。



説明会の様子

○「出先機関連携事業（未利用森林資源活用）に係る指導者研修会」が開催されました

10月20日（木）、出先機関連携事業に係る指導者研修会が三和（みわ）町で開催されました。当事業は、いわき地方において、未利用森林資源として林地に残されている間伐（かんばつ）材を環境にやさしい木質ペレットとしての有効活用を図るため、ボランティアによる「緑の応援隊」を組織し、間伐（かんばつ）材を林外に搬出する作業を行うものです。

今回は、連携室員等が緑の応援隊に対する安全対策等を実施するための研修会を兼ねて搬出作業を行いました。

現場は沢筋（さわすじ）の面積3.84ha、材齢24年生の杉を中心とした共有林で、作業は高低差40m（メートル）の林道沿いの集積箇所まで人肩（じんけん）により搬出するものです。途中休憩を取りつつ、作業を行いました。参加者の大半は男性でしたが、日頃の運動不足？とさすがの重労働に息を上げるものが続出する状況でした。

また、午後からは玉切（たまぎり）の実演・体験が行われました。集積された間伐（かんばつ）材は、8t（トン）トラック1台分になり、関係者も満足する結果となりました。

なお、今回集められた間伐（かんばつ）材は遠野（とおの）町のペレット製造工場に運ばれ、木質ペレットに加工されます。



作業様子



みんなで記念撮影

○平成18年度第1回いわき農業普及推進懇談会を開催！

平成18年10月26日、いわき農林事務所農業普及部では効率的な農業改良普及事業の推進を図るためには、農業及び農村の実態に即応し、農業者とのより密接な連携が必要であることから、いわき市や農協等の関係機関及び普及情報協力者の方々を構成員とする第1回いわき農業普及推進懇談会を開催しました。

懇談会では、本年度の普及指導活動の中間実績等について報告し、今後の普及活動の進め方等について意見交換を行うとともに、「ふくしま食・農戦略」について説明し委員の方々の理解を深めました。懇談会では、「水稻直播は、特に高齢化や大規模経営にあっては育苗（いくびょう）作業の負担軽減のため効果的である」ことや、「エコファーマーについては、比較的取り組みやすいため今後も更なる拡大を図る必要がある」ことなどの意見等が出されました。なお、来年3月に第2回目の当懇談会を開催する予定となっております。



農業普及推進懇談会の様子

○野菜のエコファーマーが9名認定されました。

10月30日いわき合同庁舎で、エコファーマー認定委員会を開催しました。審査の結果、トマト7件、ブロッコリー1件、ネギ1件、の9件、9名の認定が了承されました。今回の認定で、いわき地方のエコファーマーは445件になります。

トマトのうち6件はいわき地方では初の更新の認定で、平成13年に認定されたJAいわき市ハウス部会菊田支部の方々です。今回は、現在よりもさらに環境にやさしい農業を目指し

て、精密な施肥を行う点滴かん水や、防虫ネットを導入し、新たな技術に取り組むなど、エコファーマーの取り組みがさらに進化しています。

ブロッコリーはいわき地方では初めての認定です。さらに特別栽培に取り組み、農地・水・環境保全向上対策に取り組もうという動きもあり、今後の振興が期待される作物です。

ネギは、長い歴史をもつ、いわき地方の代表的な野菜で、今後は、部会単位での多数の認定が期待されます。

○渡辺小の「田んぼの学校」 その8

10月31日、市立渡辺小学校の5年生14名が「脱穀」を行いました。強風の影響で一部のハセが倒れ、10月25日にハセ直しや干し直しを行うという緊急事態もありましたが、無事にこの日を迎えることができました。

はじめに、昔ながらの道具による脱穀を行い、その後、機械による脱穀を行いました。扱き箒(こきはし) や千歯扱(せんばこ) き、足踏み脱穀機、ハーベスタでの脱穀など、時代とともに道具が進化してきたことを肌で感じました。また、粃の選別は粃篩(もみふるい) (もみふるい) を使って粗く選別し、その後、唐箕(とうみ)(とうみ) を使って、数種類に選別する方法で行い、粃摺りには、一升瓶と突き棒を使用しました。単なる道具体験だけでなく、一連の農作業体験となり、子供たちには良い経験になったと思います。

次回、11月7日には「おにぎりパーティ」を行います。今まで大切に育てたお米を、やっと味わえます。



乾燥した稲穂の搬出作業



唐箕(とうみ) を使った粃の選別作業

トピックス

○「プレIターン事業田舎暮らし体験ツアー」を行いました

いわき市田人(たびと)町荷路夫(にちぶ)地区で10月7日から1泊2日の田舎暮らし体験ツアーを行いました。ツアーには福島県へのIターンを希望している、主に首都圏の8家族16名が参加しました。

当日は台風なみに発達した低気圧による暴風雨で、荷路夫(にちぶ)地区に通じる県道が朝方まで不通になったり、常磐線が運休し2家族が欠席となるなど、開催が危ぶまれました。しかし、参加者とスタッフや地元の農家のみなさんの思いが通じたのか、午後になると天気は快晴となり、参加者はわらじつくり体験、稲刈り体験にこころよい汗を流しました。

夜には、田人(たびと)小学校荷路夫(にちぶ)分校の児童が、念仏太鼓を披露し、参加者は農村に息づく伝統文化に感動したようでした。また、既に荷路夫(にちぶ)地区にIターンしている3家族から体験発表が行われ、住宅を確保するまでの苦労話や、一部の全国紙の朝刊は夕方に届く、バスが廃止されて不便、など田舎暮らしの問題点や、その一方で、空気や水、野菜のおいしさ、降るような星の美しさ、温かい近所付き合いなど、荷路夫(にちぶ)地区の素晴らしさも話し合われました。参加者は地元農家に民泊し、自家野菜を活かした手作りの料理に舌鼓をうちました。翌朝は自家野菜の収穫体験、木炭の窯だし体験、記念植樹を行いました。

この体験ツアーにより田舎暮らしの実態への理解が深まり、今後、Iターンの増加につながることを期待されます。



農作業の様子

○第9回福島県森林組合連合会良質材展示会が行われる

第9回福島県森林組合連合会良質材展示会が、10月17日にいわき市遠野(とおの)町にある同連合会(かい)いわき木材流通センターで行われました。

この展示会は、生産技術の改善向上と商品価値を高め、もって、森林組合共販所材の優秀性を広く紹介すると共に、木材需給の安定に寄与することを目的として開催されます。

記念式典では、同連合会根本(ねもと)副理事長から代表理事会長代理としてのあいさつに引き続き、多数の来賓を代表して福島県農林水産部長から祝辞がありました。

同展示会には、10月12日に行われた良質材展示会審査会において、林野庁長官賞に輝いた磐城造林株式会社のスギや、福島県知事賞に輝いた緑川農林のヒノキも出品されたほか、天候不順のため例年より入荷量は少ないものの、良質材併せて約1,500m³が展示され、県内外からの多数の買方の参加を得て盛会の下、入札により販売が行われました。

当日は良質な材が集まったこともあり、前月に比べスギ材は、1,500円/m³ほど高値での取引となり、材を出荷した人からも安堵の声が聞かれました。

同審査会において入賞した磐城造林株式会社ほか7団体は、10月21日に郡山市で行われた平成18年度福島県林業コンクール等表彰式にて表彰されました。



○林野庁長官賞

出品者;磐城造林株式会社

樹種;スギ

長級;3m

径級;18~22cm

本数;85本

材積;9.689 m³

落札価格;16,000 円/m³



○福島県知事賞

出品者;緑川農林

樹種;ヒノキ

長級;6m

径級;16~18cm

本数;11本

材積;2.079 m³

落札価格;28,800 円/m³

○第45回福島県優良木材展示会が行われる

福島県木材協同組合連合会、株式会社平木材市場の共催により、第45回福島県優良木材展示会が、10月19日にいわき市内郷綴(うちごうつづり)町にある同市場で行われました。

この展示会は、福島県産材を広く紹介すると共に、木材の需要拡大と木材業界の一層の結束と協調を図ることを目的として、毎年秋の需要期に行われ、福島県産材のPR並びに需要促進に役立てられています。

展示会で行われた記念市には、スギ、アカマツやケヤキ等の優良な素材や製品が、直前の天候不順にもかかわらず、通常の市(いち)の約2倍の量である素材3,200 m³、製品500 m³が入荷しました。活気に満ちた競り売りにより、材が高値で取引され完売したことから、材を出荷した人からは、今後の相場の動向に期待ができるとの声が聞かれました。

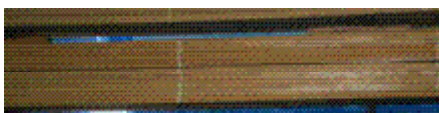
記念式典には、木材関係者ほか約60名が出席し、多数の来賓を代表して福島県農林水産部長が、優良な木材の安定供給と需要拡大に大きな貢献をされていることに対して謝意を述べました。



平木材市場の競り売り状況

○株式会社いわき木材市場の創立五十周年記念市が行われる

株式会社いわき木材市場の創立五十周年記念市及び記念式典が、10月25日にいわき市泉町にある同市場内で行われました。



場内で行われました。

記念式典では、木材関係者ほか約50名が出席し、井澤代表取締役のあいさつの後、多数の来賓を代表して、いわき農林事務所小山所長が、同市場の昭和31年の創業以来50年間にわたる素材及び製材品の流通を通して、県産木材の円滑な供給に努められたことに対し、謝意を述べました。

記念市では、あいにくの天候不順によるため例年より少ない入荷量ではありましたが、それでもスギやアカマツ等の素材1,800 m³ 及び製品600 m³ は、前月より1,000～1,500 円 / m³ ほど高値で取引され、完売しました。



いわき農林事務所小山所長祝辞

[◀ もどる](#)

[すすむ ▶](#)